



令和6年度は「土台づくり」の年

今年度は、官民で連携してビジョンを作成するための基礎調査として、駅前の利用実態やデータを整理し状況を共有することで、市民・団体・事業者などと市が連携して市街地を整備していく「土台づくり」を行います。

問合せ：企画課（内線1527）



ララオカヤのオープンから約40年。人口減少、少子高齢化、ライフスタイルの変化など、まちの様相は激しく変化してきました。ララオカヤの閉鎖により、駅前、駅南地区の駅周辺整備をどのように行うのか、市民、事業者とともに考えていきます。



●都市機能誘導区域内での再編

岡谷市では公共施設の縮減を実施しています。岡谷駅周辺は岡谷市立地適正化計画の「都市機能誘導区域」としており、公共施設の再編集も検討課題です。



岡谷駅周辺計画 これまでの経過

- 駅前 昭和59年 ララオカヤ開店
- 駅南 平成13年 イトーヨーカドー撤退
- 駅南 16年 ララオカヤ謹訪バス所有の床を「岡谷市土地開発公社」が取得
- 駅周辺の開発に向けて「岡谷駅周辺市街地総合再生計画」を策定し、権利者の調整等を行う
- 駅南区画整理事業完了
- 駅南 20年 リーマンショックにより事業化実施時期の見直しを行う
- 駅南 25年 駅南地区の定住交流拠点の創出のため、社会福祉法人が複合施設の建設を計画し市有地の一部を売却
- 駅南 28年 駅南の複合施設の事業が建設費の高騰により実施が困難となる
市有地は約11,000m²、隣接の街区公園は約2,800m²。街区公園以外の部分は暫定的にパークアンドライドなどの駐車場として賃貸
- 駅南 29年 ララオカヤの建物の老朽化が進むなか、建設費の高騰により再開発の事業成立が困難と判断
- 駅前 元年 ララオカヤの権利者と協議を行い市が権利を一本化することに決定
- 駅南 6年 すべての権利者の所有権の移転が完了し、市への権利一本化となる建物を閉鎖

岡谷駅周辺整備がスタート！